

りべら

りべら

2013.8

129

号

発行所：公益財団法人公害地帯再生センター（あおぞら財団）
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階

特集：あおぞらイコバでみせ 出店中…1

『西淀川公害の40年』出版しました…3

日本の空・中国の空…5

釜石あづまっぺ！通信…6

アスベストを学ぶ…7

あおぞら財団会員のつどい2013 レポート…8

フードマイレージ買物ゲーム 各地版あります…9

忙中一筆 入江智恵子…10

西淀川記憶あつめ隊：田中忠雄さん…11

ぶらりとゆらりと西淀川めぐり 銭湯でゆっくり編…12

柏里の虹色コラム…12

あおぞら広場…13

淀川で体験漁業。チヌ（黒鯛）を獲りました。（2013/4/22）

自転車マナーの啓発と御堂筋に自転車レーンを求めて、300人以上の人が青色アイテムを身につけたアピール走行に参加した御堂筋サイクルピクニック（2013.4.14）。次回は9月22日（日）のカーフリーデーです。<http://cycleweb.jp/cyclepicnic>（写真：武壮隆志）



まちづくり



あおぞら
フォトギャラリー



資料館

大阪大学未来共生イノベーター博士課程プログラムコミュニティワークの受け入れです。住民にインタビューしてもらいました。写真左が大学生。（2013年6月8日）



お知らせ

【自転車文化タウンづくりの会主催】

●第5回御堂筋サイクルピクニック

日時：9月22日（日）10:00-15:00 雨天決行
会場：大阪・中之島公園 中央公会堂ななめ前の広場（京阪中之島線なにわ橋駅周辺）
参加費：無料（参加賞あります！）

【西淀川・親子ハゼ釣り大会実行委員会主催】

●西淀川・親子ハゼ釣り大会実行委員会

日時：10月19日（土）午後予定
場所：淀川河川敷（2号線淀川大橋北詰付近グラウンド横）
参加費：300円

【エコでつながる西淀川推進協議会主催】

●廃油キャンドルづくり

日時：11月24日（日）時間は未定
会場：あおぞらビル
内容：キャンドルナイトに使う廃油キャンドルをつくります



【日本野鳥の会大阪支部との共催】

●矢倉海岸定例探鳥会

日時：9月7日（土）、10月5日（土）、11月2日（土） 9:30～12:30
集合：阪神なんば線「福」駅改札口、解散は矢倉緑地



ビルあおぞら

【1F】地域交流スペース「あおぞらイコバ」

会議、ギャラリー、コンサート、上映会などにご利用いただけます。
午前：1,000円／午後：1,300円／夜間：1,300円／全日：3,000円

【5F】西淀川・公害と環境資料館（エコミューズ）

西淀川公害や環境について、地域の歴史などが知りたい人はぜひお越しください。

開館日 月曜日と金曜日（10:00～17:00）／要事前電話予約

●いずれも、予約・お問い合わせは4F事務所へ



あおぞら財団とは

1960年代から問題となった大気汚染公害によって、多くの人が健康被害を受けました。その責任を問う西淀川公害裁判（1978～1998）では公害患者が勝利しました。患者は「手渡したいのは青い空」を願い、裁判の和解金の一部を使って1996年にまちづくり組織・あおぞら財団を立ち上げました。まちづくり・資料館・環境学習・公害患者の保健・国際交流の事業を行い、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階（TEL）06-6475-8885（FAX）06-6478-5885 電子メール：webmaster@aozora.or.jp <http://aozora.or.jp/>



まちづくり

「バスにはどんな役割があるの？」ワークショップで意見交換。連続講座「交通まちづくりイロイロ～バス・自転車・LRT～」6/29（土）開講

あおぞら財団への寄附や賛助会費は、税制上の優遇措置があります。

●賛助会員 会員の方には機関紙などをお送りします。

【年会費】個人：年一口5,000円、学生：年一口2,000円、法人・団体：年一口10,000円

●会費・寄附の振込先

＊郵便振替口座 00960-9-124893

加入者名：あおぞら財団

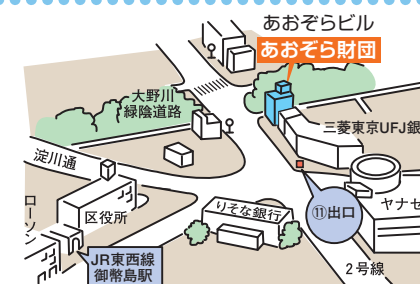
＊三菱東京UFJ銀行 歌島橋支店

普通 3764689 口座名義：あおぞら財団賛助会員

りそな銀行の専用の口座は閉鎖いたしました。ご不便をおかけしますが、ご了承ください。



会員・寄附募集



●JR東西線御幣島駅①出口すぐ
●阪神電車姫島駅より徒歩10分
●JR神戸線塚本駅より徒歩15分

2012年12月17日と2013年5月27日に開催しました。
 佃の歴史を伝えている佃史探求風と緑の会の皆様の協力のもと、第1回目は粕汁を、第2回目は箱ずしを作ってみんなで食べました。箱ずしは、佃の田養神社の夏祭りで地域の人がつくってみんなで食べていた思い出の味。ジェーン台風の水害の話や、新佃公園の話、水防扉や神崎川で遊んだ話などをワイワイ言

佃くだ でみせ



地域の記憶を「あーだ、こーだ」みんなで語ります。

協力：佃史探求風とみどりの会

みんなで作った粕汁。



佃にある「水防扉」について水防団員である櫻井さんが教えてくれました。



箱ずしの材料は「とんぼ節」甘辛く炊きました。



箱ずし



出店中

あおぞら イコバ でみせ

特集



でみせの様子をまとめた「おもろいわ西淀川」(A5判8ページ)を作成しました。希望者に配布していますのでお声掛けください。また、ホームページ(<http://aozora.or.jp/omoiwa/>)を開設しています。ぜひご覧ください。

(地球環境基金助成事業) 林

地域は公害だけではなく、面白いことが沢山あります。地域にはいろいろな顔があつて、その中の一つが公害なのだと思います。地域の面白いことを、地域のひとと語って、食べて、楽しみながら再発見して発信していく取組みを2012年度から始めました。名付けて「あおぞらイコバでみせ」。佃地域と福地域のでみせの様子をお伝えします。

公害を伝える活動をしてきて感じたのは「人によって公害の見え方は千差万別」ということです。あおぞら財団は公害患者の立場に立って語ることが基本ですが、「僕が見てきた公害とちがう」といった意見や「もう公害なんて言ってほしくない」という意見をもらうことがあります。たしかに、西淀川の



ボラのフライ

いかなごのくぎ煮



おっきなボラ

福く でみせ

2013年3月24日に開催しました。西淀川の福には、漁港があります。大阪市漁協の漁師である、北村泰規さんと北村英一郎さんにお話ししてもらいました。前日に淀川で獲れたボラのフライと、大阪湾で獲れたいかなごを食べながら、大阪湾がきれいになった話、資源管理型の漁業になってきていることなどを教えてもらいました。

西淀川の漁師さん。北村英一郎さん(左)と北村泰規さん(右) 表紙写真は北村泰規さんが淀川で漁をしている様子です。



龍谷大学の学生が進行役



協力：大阪市漁業協同組合



西淀川公害の40年』出版しました

2013年3月に『西淀川公害の40年』をミネルヴァ書房から出版しました。きっかけは、西淀川公害患者と家族の会(以後、患者会)会長の森脇君雄さんの「西淀川の公害反対運動を第三者の目線から評価してほしい」という願いからでした。これまで、患者会は当事者の語りとして『西淀川公害を語る』や『青い空の記憶』を出版してきました。一方で、あおぞら財団付属西淀川・公害と環境資料館では、裁判資料や公害反対運動資料を保存整理してきました。資料には、患者会の活動が工業専用地域反対運動や、フェニックス反対など、患者の裁判中心の語りには出てこない事実があることが分かってきました。そこで、これまでの患者の語りと、資料をもとにして、研究者が西淀川の公害反対運動とまちづくりとの関連性について論証することになりました。その成果が『西淀川公害の40年』です。

2013年5月19日にお披露目会を開催し、執筆者から本の解説をしてもらいました。ここでは、その一部を紹介します。



第1章 公害反対運動から「環境再生のまちづくり」へ

—大阪・西淀川からうまれた現代都市政策の理念

除本 理史さん

大阪市立大学教授

本 書の編集意図は、昔話としてではなく、未来に向けてどのような意義があるのかを明らかにすることにあります。それは、当事者以外の人たちにとって、どのような意義があるのかを伝えることにもなります。



第2章 地域医療から捉える西淀川公害

—「医療の社会化」運動から公害問題へ

尾崎 寛直さん

東京経済大学准教授

「医 療の「社会化」運動から公害問題へとという流れのなかで、公害は、公害患者が表舞台に立つことで社会問題となっていく。まずは、公害患者がなぜ立ち上がったのかを考えなければなら



第3章 西淀川の公害教育

—都市型複合大気汚染と公害認識

林 美帆

あおぞら財団研究員

資 料館で仕事をしていると、各地の公害被害地の資料館に行く機会があります。その時に西淀川公害の反対運動のやり方が特別だと知りました。公害反対運動は、差別もあって、地元ではなかなか



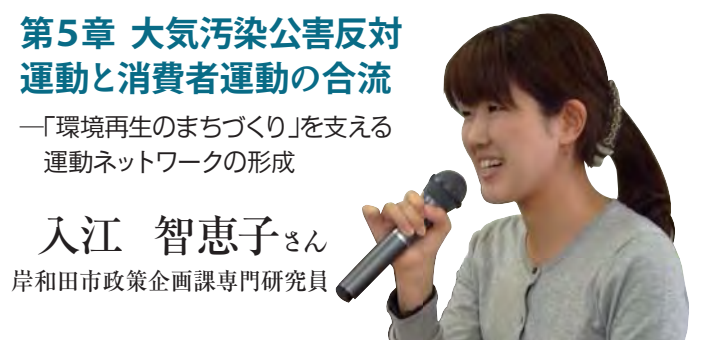
第4章 臨海部開発と地域社会

—フェニックス事業をめぐる

松岡 弘之さん

大阪市史料調査会調査員

フ エニックス事業は、産業廃棄物を大阪湾に埋めて処分をしていく計画です。産業廃棄物は、高度成長の中で増えていき、1970年代の初めに埋め立て案が出てきます。1985年にフェ



第5章 大気汚染公害反対運動と消費者運動の合流

—「環境再生のまちづくり」を支える運動ネットワークの形成

入江 智恵子さん

岸和田市政策企画課専門研究員

西 淀川の患者会は、環境分野に限らないさまざまな運動団体とかかわってきました。「自分たちの子どもや孫の世代のために」という思いを大切にしてきた運動だからだと思います。

端的に言えば、患者会の活動が、大阪のような大都市が今後発展していくための方向性や課題を、早い時期から提起してきたのではないかとことです。住みよい環境文化、医療・福祉などを切り捨てて都市が発展するのかというと、私はそうは思いません。そこに住む人たちの生活の質を向上していくことが、重要になってきます。

公害で地域環境が悪化し、続いて1970年代後半以降の産業構造の変化により、従来型の産業が引き続き詰ってきた。それらの課題を同時に解決する道筋を考えるうえで、西淀川で行われてきた、地域環境を改善する中で地域を活性化しようとする取り組みは、先駆的な意義をもっています。患者会の活動は、患者自身の救済だけではなく、広く地域社会の直面する課題に取り組んだことで、多くの人の共感を得ました。

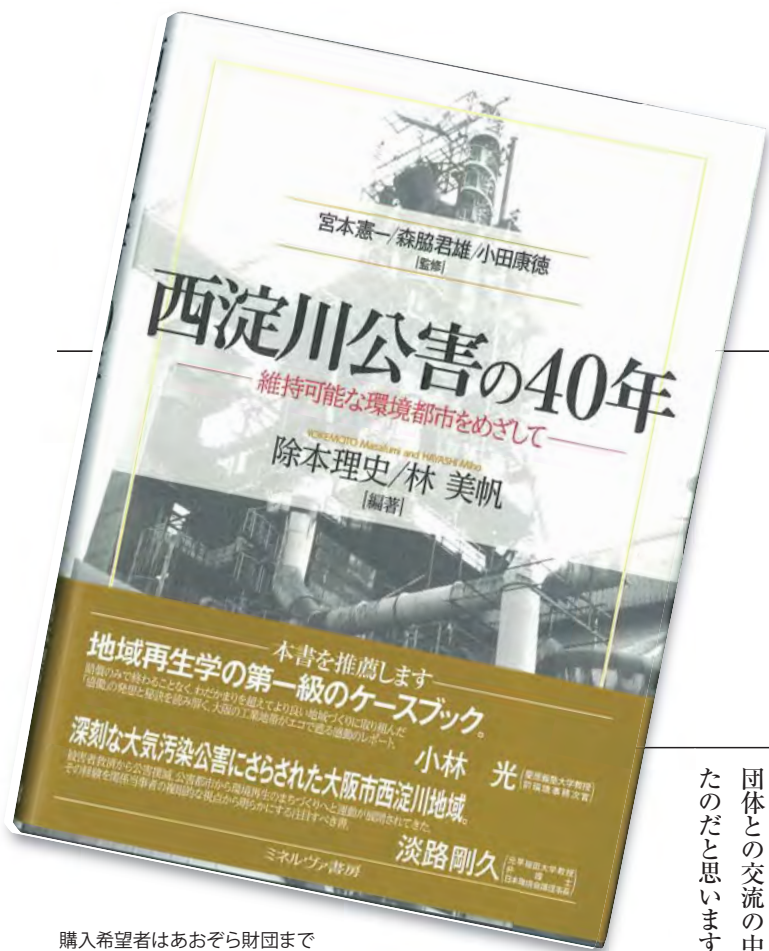
放射能汚染からの再生が重要なテーマになっている東日本震災の被災地にとっても、西淀川の経験は、大切なメッセージを含んでいると思っています。福島などでは裁判を通じて、いわば「被曝を避けて住む権利」を保障させようという取り組みがはじまっています。つまり、原発事故以前の環境を取り戻そうということ。こうした被災地の運動にとっても、西淀川の経験は大切な教訓を含んでいるのではないかと思います。

りません。大きな理由のひとつが、西淀川の医師会が公害の被害調査や患者の掘り起こしにかかわるなど、全国的にみてもユニークな取り組みに尽力したこと。なぜそんなことができたのか。西淀川は労働者の街として発展してきた背景があり、労働環境も昔は厳しかったし、伝染病も流行しました。医療はこの地域の死活問題だったのです。そのため、この地域の人々は、労働者と医療者の連携によって自分たちで病院を立ち上げるなど、先駆的な取り組みを行ってきた。また、「健康を守る会」という住民の自主的な組織が結成されたのも、全国で初めてです。「会」が母体となつて多くの病院も生まれ、こうした取り組みは全国にひろがっています。このような西淀川地域の自主的な取り組みが、医療者を動かさざるを得なかったのではないかと思います。西淀川の公害認定患者数が多いのも、患者の生活と環境に根ざした地域医療がここで展開されていたからこそではないでしょうか。西淀川の住民は医療を行政や医者任せきりにせず、自ら当事者意識をもって守り育てていった。現在、地域医療の危機が叫ばれる中、西淀川の経験を全国に伝えていく意義は大きいと思います。

か展開することができない中で、西淀川ではなぜ地元で活動ができたのか不思議でしたが、その要因の一つは公害を伝える努力が地域にあったからだだと思います。1960年代は地元の人が公害をあまり自覚しておらず、地域外から通う先生が公害から子どもを守るために行動を起こして公害教育が作られていきました。発生源がはっきりしない西淀川では、公害を教えるのが難しい中で、被害がある事を第一にとらえて、まちづくりの課題として教育を展開していきました。その流れは、あおぞら財団に引き継がれたと考えています。

ニックス計画が明らかになって、1992年に西淀川に搬出基地が設置されます。患者会は、この西淀川の搬出基地建設反対運動の中核を担っていました。最終的に搬出基地が建設されており、この反対運動が輝かしい歴史というわけではありません。しかし、患者会が暮らしの中で出てくる廃棄物のあり方がどうあるべきなのかという事を問う意味は大きかったと思います。また、フェニックス計画は、関西の2府4県の広域的事業です。自治体行政が広域化していく中で、地域住民がどの様に関わるのかという問題を先駆けて提案していると考えました。

1988年の3・18府民大集会へのとりくみは患者会にとってひとつの転換点でした。この時に3つの支援組織「西淀川公害裁判支援区民連絡会」「大気汚染公害をなくし、被害者の早期完全救済をめざす大阪府民連絡会」「地球環境と大気汚染公害を考える全国市民会議・CASA」が結成され、西淀川の運動に多様な人たちがかわることができるようになりました。なかでも、消費者団体との関係は重要で、生協の組合員を中心に大気汚染を当事者として捉える市民を増やすものでした。裁判後の環境再生のまちづくりという新しい取り組みは、こうした多様な市民団体との交流の中から生まれてきたのだと思います。



購入希望者はあおぞら財団まで
(税別 3,500円)



レポート



西淀川と被災地のものいただきます。



あおぞら財団会員のつどい 2013

6月9日(日)10:00~13:30 場所:あおぞらビル3階 参加者25名

毎年恒例となったあおぞら財団会員のつどい。会員さんだけではなく、大学生や公害患者さん、あおぞら財団と交流のある人などが集まりました。

1部はドキュメンタリー映画『命でなんぼなん?—泉南アスベスト禍を闘う』の上映と、泉南アスベスト国賠訴訟の原告と弁護団のお話です。公害で命を奪われる苦しみ悲しみを前に、涙を流す人も多くいました。

2部はあおぞら財団の活動報告。あおぞら財団の活動5分野と重点事業から、一緒に取り組んでいる人達や職員からの報告です。そして、3部は『ランチ交流会』。『柏里虹色コラム(P12)』の執筆者、藤井さんが経営する寺田商店(西淀川区柏里)のからあげや被災地支援品として財団で販売している缶詰など、財団に馴染みの深い食べ物を参加者で頂きました。



石の綿—マンガで読むアスベスト問題

225ページ 1,365円 かもがわ出版 監修:松田毅・竹宮恵子
制作:神戸大学人文学研究科倫理創成プロジェクト・
京都精華大学機能マンガ研究プロジェクト

神戸大学と京都精華大学の協働プロジェクトにより出版されたアスベスト公害を学ぶマンガです。日本にアスベスト問題を知らしめた2005年の『クボタ・ショック(第1章)』から始まり、仕事や生活の中での無自覚な吸入(第3章洗濯曝露、第4章ある工場労働者の一生)や、震災のがれき処理とアスベスト(第8章震災とアスベスト)等、この1冊で様々な角度からのアスベスト公害の問題点が分かります。



原画展では、新聞記事や被害者が詠んだ俳句、裁判官への手紙、アスベストの利用と被害がわかるカードも展示しました。



上映後、原告と弁護団の話もありました。参加者からは「国民の犠牲の上にある国の繁栄とは何なのでしょうか。」「他人のことと思っていけない。」などの感想が寄せられました。



アスベストについて調べる歌島中学校の生徒と質問に答える遠地靖志さん。遠地さんは泉南アスベスト国賠訴訟弁護団の若手弁護士です。西淀川区佃地区の出身で、今回の企画にもご協力いただきました。中学生がアスベスト公害を紹介しています。

<http://aozora.or.jp/archives/15810>



石綿紡績工場(提供 泉南アスベスト国賠訴訟原告団・弁護団)

安価な上に、耐久性や不燃性がある…アスベストは「魔法の鉱物」として広く使用されました。日本でも「石綿」と呼ばれ、建築資材やボイラー、自動車、ブレーキ部品など3000を超

える製品に多用されました。しかしアスベストは「石綿肺」や「肺がん」「中皮腫」などの深刻な疾病を引き起こす「キラー・ダスト」。国はそのことを早くから知っていたにもかかわらず、石綿の工業的有用性を優先して長い間、必要な規制や対策を行いませんでした。「中皮腫」の潜伏期間は約40年、過去にアスベストを曝露したことが原因で発症する患者さんが増え続けています。アスベストは、今後も被害の拡大が強く懸念される公害なのです。

山田 カヨミさん

2陣原告



25年前アスベスト関連の仕事をしていた主人は、老後の人生をこれから楽しく過ごそうという時に発症し、食物も口でできず、おなか浮輪のように腫れ、横になり寝る事もできず、6カ月で亡くなりました。私も2年間アスベストの仕事をしており、発症が心配です。国はどうして危険性を知らせてくれなかったのでしょうか。

村松 昭夫

大阪じん肺アスベスト弁護団 副団長
(弁護士・あおぞら財団理事長)



泉南アスベスト被害は、わが国のアスベスト被害の原点です。アスベスト被害は、今、全国に広がり、建設アスベストでは、日本の労働災害史上最悪の被害者が出ています。被害の全面的な救済とこれ以上の被害発生を防止するためには、国の誤りの原点である『泉南アスベスト国賠訴訟』は、必ず勝たなくてはなりません。人の命を大切にする社会にするためにもぜひご支援をお願いします。

ドキュメンタリー映画

『命でなんぼなん?—泉南アスベスト禍を闘う』

(66分版)監督:原一男(映画監督、大阪芸術大学映像学科教授)制作:疾走プロダクション
古くから石綿紡績工場が集積していた泉南地域。そこで紡織業に従事していた労働者、家族、周辺住民らに多数の石綿患者が発生しました。『大阪・泉南アスベスト国賠訴訟』は深刻な被害の発生を知りながら、産業発展を最優先して規制や対策を怠った国の責任を問う裁判です。この映画では、時間とともに次々消えていく原告の命や被害の苦しさ、裁判を闘う原告と弁護団のありのままの姿を記録しています。

上映に関する情報は『大阪泉南アスベスト国賠訴訟を勝たせる会』まで(上映団体も募集中)

HP:<http://www.asbestos-osaka1.sakura.ne.jp/kataseru/>





除本理史さん、尾崎寛直さん、入江智恵子さんと行った辰巳正夫さんのヒアリング(2008年9月28日)。西淀川・公害と環境資料館の地道な活動が『西淀川公害の40年』につながっています。

「はじめな話は真顔で神妙に…(相手に話の内容がまじめなモノだということが伝わらなければなりませんからね)」「失敗談は自分だけの胸の内に…(ヒトに自分の未熟さを知らしめることなくて恥ずかしいだけです)」…というバリバリの北関東文化(?)の中で生まれ育った私にとって、大学進学と同時に関西は、まるで異国の地でした。「笑いを交えなければ、(まじめな話

も聞いてもらえない!」「痛くて辛かった失敗は誇れるネタ。誰かにしゃべらないなんて損!」「騒がしくてうつとうつしい、けれども明るくて少し前のめりの関西の文化が、今ではとても気に入っています。

市民運動の発展を研究

「日本の市民運動はどのように発展してきたのか」その問いに答えたいと、研究の道に進みました。さまざまな事例を調べていく中で、日本の環境運動は、公害反対運動からの長い歴史があるというところ、政治を動かす制度を作り上げてきた戦後の市民運動の代表格であり続けてきたこと、そして、1990年代には他の分野に先駆けて国際的な市民運動のネットワークを作ってきた実績

を持つものであると知りました。大阪市西淀川地域に、まさにそうした運動団体があると聞き、修士論文に取り組むために西淀川患者会とあおぞら財団に伺ったのが、今から9年前のことです。

運動への共感を広げる

西淀川の環境運動を研究するのとて私が一番知リたかったのは、患者さん達が問題をどのようにに当事者以外の人々に伝え、運動への共感を広げていったのかということでした。エコミューズに所蔵されている資料から患者会と弁護団の戦略を調べたり、患者さんや運動の支援者の方々にお話を伺わせて頂いたりする中で辿り着いたのは、被害の甚大さはいまでもなく、西淀川の運動は「むずかしいことを全員が分かる

までやさしく」説き、「しんどいことも楽しむ」ことができるものであったということでした。仏頂面で語るのでは、大切なことも伝わらないのです。

私は今、岸和田市の政策企画課で研究員をしています。西淀川とはまた違う異国情緒を感じながら、住民自治による地域コミュニティの再生について研究しています。人口減少、少子高齢社会の到来による地域活動の担い手不足、人間関係の希薄化…「課題」と言われることは山積みです。けれども、危機感を煽るだけでは人には伝わりません。何が問題か正しく見極め、悲観せず時々には笑い飛ばしながら、前向きにとりくむ努力をこれからも続けていきたいと思っています。

忙中筆

何が問題か正しく見極め、悲観せず時々は笑い飛ばしながら、前向きにとりくむ

あおぞら財団とつながりがある人からのエッセイを寄せてもらっています。『西淀川公害の40年』の執筆者の一人である入江智恵子さんです。



入江 智恵子 (いりえ ちえこ)

1980年栃木県生まれ。大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程修了。商学博士(環境政策論、社会運動論)。岸和田市政策企画課専門研究員。

京都府版

2009年度にあおぞら財団の協力を得て誕生した京都版フード・マイレージ買い物ゲームは、京都府センターの貸出しグッズの中でも、定期的に貸し出される教材です。2012年度は延べ13回のフード・マイレージ買い物ゲーム学習会が京都府内各地で開催されました。また、京都府内で社員食堂や学校給食で地元産食材を使用してもらい、その実際のCO2削減効果を「数値化・見える化」し、学習会で具体例として紹介しています。

京都府地球温暖化防止活動推進センター 西澤浩美
〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町41番地3 TEL:075-803-1128 center@kcfca.or.jp

徳島県版

徳島市では、環境問題についてもっと知りたいという市民の方を対象に「出前環境教室」を実施しています。その一つ



徳島市市民環境部環境保全課
〒770-8571 徳島市幸町2丁目5番地 TEL:088-621-5213 kankyo-hozen@city.tokushima.lg.jp

大阪府版

大阪府地球温暖化防止活動推進センターでは、小学生向けの教材(春版、秋版)を作成しています。地球温暖化防止活動推進員(チームフードマイレージ)の方はこの教材を活用して学校や数多くの団体に出前講座を行っています。これからさらに幅広く活用していきたいと考えています。

〒541-0054 大阪市中央区南本町2-1-8 TEL:06-6266-1271

フードマイレージとは

食べ物の生産地から消費される食卓までの輸送に要した「距離×重さ」を表しています。輸入に頼る日本のフードマイレージは非常に多く、輸送による環境負荷が問題になっています。フードマイレージ買い物ゲームは、夕食の食材の輸送による環境負荷であるCO2の排出量を考えるカードゲームです。

他には、大阪吹田市版(吹田市自然体験交流センターわくわくの郷)や福島県版、山形県版などもあります。また、あおぞら財団にも大阪府版の教材があります。貸し出しや講師依頼があればお気軽にご連絡下さい。http://www.aozora.or.jp/foodmileage/

岡山県版



みずしま財団 塩飽敏史
〒712-8034 岡山県倉敷市水島西栄町13-23 TEL:086-440-0121 webmaster@mizushima-f.or.jp

倉敷市水島でも、2007年に「岡山版」を作成して、これまで、幅広い層からのニーズにお応えして講師派遣を行ってきました。今年度あらたに、瀬戸内の特徴であるお魚を充実させた「新・岡山版」の作成を予定しています。



2006年度に作成して以来、変わらぬ人気を集めているフードマイレージ買い物ゲーム。現在も、貸し出しや講師依頼の声があおぞら財団にかかるとともに、各地でゲームを作りたいという要望を聞きます。そこで各地バージョンがどのような活動をしているか、紹介をします



大阪府池田市版



池田エコミュージアム(池田市立3R推進センター)
〒563-0058 大阪府池田市栄本町1-8 TEL:072-752-7711 info@ikedai-ecomuseum.org

池田市内の小学校6年生70名を対象に実施。地域の栄養士団体と協働し献立に対する栄養評価を入れ、すぐに消費行動につながるよう池田または近隣地域で生産されている食物やそれらを販売している場所を紹介した。

野里温泉

野里小学校近くにある銭湯です。タイルとすりガラスが綺麗な風呂があります。昭和な雰囲気満載の野里温泉の操業は戦前からだそうです。この特徴は薪でお風呂を焚いていること。ご主人が一週間に1回、チェーンソーで建築廃材を切っています。

所 野里2-22-30
休 日曜日
営 15:00～00:00
☎ 06-6474-1018



中村 礼子さん

ぶらりとゆるりと 西淀川めぐり

銭湯でゆっくり 第7回

「西淀川って銭湯が多いよね」という印象があります。現在、西淀川で操業している銭湯は14軒。小学生からおばちゃん、おばあちゃんまで、いろんな人がひっきりなしにやってきて、会話が交わされる場所。西淀川の

社交場の一つです。仕事帰りにお風呂はいかがですか？大人410円、小学生130円です。



夏は銭湯で
ひと汗流そう！



武田 和枝さん

八丁温泉

緑陰道路の塚本側の終点にある銭湯です。いろんなお風呂があります。中でもおススメは電気風呂。薬湯にもなっているので、効果抜群。疲れた肩や腰に電気の「ビリビリ」が効きます。露天風呂もあって「お風呂のワンダーランド」。大きな鳥がお出迎えしてくれます。

所 御幣島3-10-2
休 月曜日(祝日の場合営業)
営 15:00～1:00(日曜8:30～1:00)
☎ 06-6472-2761



最終回

柏里の虹色コラム

活性化を目指す商店街とその事情

今、日本全国どの地域でも「商店街活性化」が叫ばれています。言葉だけ捕らえれば簡単に聞こえますが、なかなかそうはいかない事情があるのです。まず「商店街」は商店の集合体であるため、それぞれの店主は自店の経営が最優先になります。その中で許された時間を商店街運営に費やされます。こういった理解ある店主が何人集まって、何が出来るか？から始まるのです。実際問題として、商店街は景気低迷による経営苦と、地域の課題克服が精一杯で、地域活性化にまで手を伸ばせずにいるのが現実です。商人は商店街に来て頂く為に様々な事業を企画します。ただ、大抵の場合に“費用対効果”の壁に当たってしまいます。では、どうすればいいのか？地域の方々が商店街に対して、要望(ニーズ)と愛着をもって頂ければ良いのです。商売人気質は、求められた事に応えようとします。地域がもっともっと、商店街を必要とし、期待してほしいのです。だって、商店街は地域の中に含まれているのですから。きっと地域活性化に必要な「ワンピース」になれると思います。今年度から私は、西淀川区商店振興協議会の事務局を担当する事になりました。それぞれの地域の商店街で、出来る限りの集客イベントを開催していきます。お住まいの地域や近隣で開催の際は、是非、顔を出して下さい。心からお待ちしています。1年間、ありがとうございました。

JR塚本駅前の商店街
サンリバー柏里
藤井巖のコラムです！



田中 忠雄さん

2010年5月24日
聞き取り

西淀川記憶あつめ隊

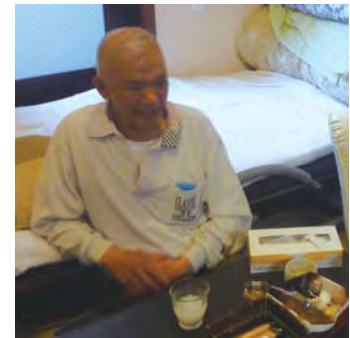
Vol.6

シリーズ

西淀川には中小企業が多く、住宅と工場が混在しています。工場の隣が住宅なんてことは珍しくありません。今回は大野で紙加工工場を経営していた田中忠雄さんのお話です。

◆通信兵として戦場へ
田中忠雄さんは、豊中市出身の1922年生まれです。15歳に高等小学校を卒業して、歌島にあった軍需工場で働き始めた。以来、ずっと西淀川にいたことでした。
17歳からは、大阪城にあった大阪陸軍砲兵工廠で高射砲の改造設計をして働いていました。働きながら、塚本にあった大阪電気学校や針中野にあった無線の学校に通い、20歳の終わりには、南方軍第33軍司令部通信兵として、満州やビルマ、雲南省、インドを転戦したそうです。
◆大野で紙加工工場を経営
戦後は、実家が尼崎の立花に移っていたそうですが、母の姉がいた西淀川へ移り住みます。結婚を機に西淀川の西野に住んだそうです。関西大学の職員として、18年間ほど施設課で電気関係の仕事をしていました。昭和43年から、一念発起して、大学を辞めて、大野で紙加工工場の経営に乗り出します。ケーキボックスなどを作る仕事で、当

時はひっきりなしに仕事の依頼があったそうです。田中さんの工場には必ず新しい加工機械があり、京都や大阪の大手企業が取引先でした。多いときは従業員が10人もいました。周囲は住宅であつたため、騒音には苦労したそうです。防音壁を作ったり、夜7時以降は操業しないようにするなど、工夫をして操業しました。これらの取り組みは、行政から言われたのではなく、「自分で考えて、周りに迷惑にならないようにやったんやで。」とのことでした。「ほんまは、操業したらドンドン儲かってよかってんけどな。近所づきあいを思ったら、そんな遅い時間まで操業できひん。」と、中小企業と町が共存するための心づかいを聞かせてくれました。「当時は地域内で金銭の貸し借りもあったし、地域のつながりが強かってん。」と、顔が見える関係であるからこそ公害防止だったことが分かってきました。また、忠雄さんの奥さんは人づきあいがうまい人で、



「いろんな苦情を処理してくれたのは奥さん。丸く収めてくれたわ。」と笑顔で語ってくれました。
◆奥さんはいつも咳してた
その奥さんが、昭和40年ごろから「しんどい、調子悪い」と言うようになり、その後、公害病認定を受けます。忠雄さんは奥さんが「いつも咳していた」という印象が強いとのことでした。昭和56年に肝硬変、公害による咳、糖尿病など、いろいろな病気が併発していた中で、56歳の若さでお亡くなりになりました。
「西淀川から出ていこうなんて考える間がないわ。」という忠雄さん。西淀川の濃密な近所づきあいが垣間見えたヒアリングでした。 (林)

ありがとうございます (2013年3月～2013年5月 敬称略・順不同)

入会

西村 仁志
 小田 康徳
 歌川 学
 柏原 愛子
 亀崎 隆太
(株)マルモット

清水 万由子
 進士 五十八
 鄭 佳琪
 西村 仁志
 平田 裕之
 八木 一夫
 小平 智子
 林 美帆
 道路環境市民塾

村松 昭夫
 田中 佳世
 神吉 紀世子
 歌川 学
 吉村 良一
 佃 孝三
 柏原 愛子
 中村 昌史
 鏡森 定信
 藤江 誠
 藤江 めぐみ
 下田 佑樹

お助けボランティア

大野 みさ子
 左成 志朗
 曾我 翔磨
 宮本 由貴

寄附・寄贈者

ワークルーム
 雨宮 洋美
 太田 博子
 傘木 宏夫

清水 万由子
 丸田 道子
 片岡 直樹
 川崎 美榮子
 宮崎 悦子

緑道散歩

大野川緑陰道路で一句、詠みました。都市型インテリジェント講座(2013年5月25日～26日)の『森の句会』というプログラムです。筆ペンと台紙を、持って歩けば気持ちは、与謝蕪村! ? 気持ちの良い緑の中、さらさらと筆がすすみ、個性あふれる句が次々と誕生していました。



シノウノウの香りさわやか 五月風 神原

りべら No.129 2013年8月号(季刊1日、年4回発行)

発行所:公益財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)
 編集人:林 美帆
 〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル4階
 TEL 06-6475-8885 FAX 06-6478-5885
<http://aozora.or.jp/> webmaster@aozora.or.jp
 デザイン:(株)パード・デザインハウス
 定価:一部400円(郵送料込)
 会員の購読料は会費に含まれています。
 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

あおぞら財団
 Facebookページ
 「いいね!」を
 押してくださいね。



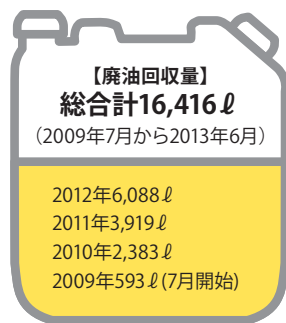
読者の声

平野 泉さん

私が勤務する立教大学共生社会研究センターでは、日本各地の住民・市民運動の資料を保存・公開しています。あおぞら財団とのつながりといえば、「千葉川鉄公害裁判」の資料を所蔵していること、『りべら(Libella)』のほか、スタディーツアー報告書など様々な刊行物を寄贈いただいていること、そして財団の林美帆さんと何度かお会いしたことです。先日も東京都内で林さんとお会いし、「資料保存機関はどこもキビシイ…」という話になりました。しかし122号のリニューアル以降さらに読みやすく充実した内容の『りべら』や、財団の多様な活動を伝えるHPを眺めていると、次第に「もしや、あおぞら財団はものすごくリッチなのではないか?」と考えるのです。それはたぶん、人・出会い・つながり・記憶・経験など、お金で測れないものをとことん大切にし、活かしているから。そんな財産をたくさん持っているあおぞら「財」団は、やはりスゴイと思います。



西淀川菜の花プロジェクト ～エコでつながる西淀川～



現在西淀川区内外53箇所で、廃油を回収しています。
 回収団体募集中。
 詳しくはあおぞら財団まで。



西淀川菜の花プロジェクトブログ
<http://nanohanany.blogspot.jp/>

読者の声募集

読者のみなさまの日ごろの活動や、アピールしたい事、またはあおぞら財団へのご意見や、りべらのご感想、あふれる西淀川愛など、多種多様な原稿を寄せていただければと思います。文字数は200字です。原稿は、表題を「読者の声投稿」としてE-mail(webmaster@aozora.or.jp)またはFAX(06-6478-5885)でお送りください。皆さまのご参加をお待ちしております。

スタッフツイッター 編集後記

林 西淀川の人は、人懐っこいです。こないだも、信号待ちしていると「かわいい長靴やなあ。どこで買ったん?」っておばちゃんが話しかけてきました。銭湯取材でも、脱衣所で「ねえちゃん出てくるん早いわ!」なんて突っ込まれたり。普段着の付き合いができるええ街やなあって思います。



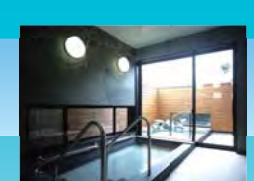


ディサービスセンター
あおぞら苑

2006年10月1日にディサービスセンターあおぞら苑は産声を上げました。西淀川公害裁判で四半世紀命をかけて闘った患者さんや家族のみなさまの思いが、ひとつの形になったのがディサービスセンターあおぞら苑です。公害患者さんも高齢になり日々の生活を援助するために、また地域のみなさまが誰でも利用でき、「西淀川に住み続けて良かった。」と思えるようにとの思いがたくさん詰まった場所にしたいと思い設立しました。



あおぞら御膳



あおぞらの湯

【お問い合わせ】
 TEL : 06-6475-0111 FAX : 06-6475-0114
 URL : <http://aozoraen.com/>
 運営 : NPO法人西淀川福祉・健康ネットワーク

◆あおぞら苑(事業所番号 2771001076)
 〒555-0032 大阪市西淀川区大和田5丁目7番14号
 開所曜日:月曜日～土曜日(祝日は開所) 利用人数: 1日18人

◆あおぞら苑Ⅱ(事業所番号 2771001407)
 〒555-0031 大阪市西淀川区出来島1丁目2番4号
 開所曜日:月曜日～金曜日 利用人数: 1日20人

油は捨てずにリサイクル!!! **TEL 06-6411-3457** **浜田化学株式会社**

いつも、ご協力有難うございます。



〈広告募集〉企業・団体・個人の皆さま

より多くの方に「りべら」を知っていただくために、
 発行部数増にご協力ください。

「りべら」は、あおぞら財団が取り組む環境活動やまちの情報を伝える会員紙として、これまで年4回(季刊)発行し、あおぞら財団会員様をはじめ、公共施設・店舗・各種施設にて配布しています。紙面上では、大阪市西淀川区を中心に、環境問題や地域再生に取り組む様々な方々に登場いただき、環境の取り組みやまちづくり活動の輪をつなぎ、広げていきたいと思ひます。今回、より多くの方に読んでいただけるよう、発行部数を増やしたいと考えております(1500部→3000部)。そのための印刷資金として、あおぞら財団の活動趣旨に賛同いただき、ともに環境活動に取り組んでいただける企業・団体・個人の皆さまから「広告費」という形での協賛をお願いできればと思ひます。いただいた資金は、本「りべら」の紙面の充実・印刷費として活用させていただきます。どうぞ、ご協力をお願いします。



【りべら広告掲載費】
 中面1/3頁:3万円/回
 中面 全面:9万円/回
 お問合せ先:あおぞら財団まで